

## 防衛大学校本科第13期学生及び理工学研究科第4期学生 入校式における学校長式辞（昭和40年4月6日）

本日、小泉防衛庁長官<sup>注(1)</sup>をはじめ、杉江統幕議長<sup>注(2)</sup>、その他多数の来賓並びに入校学生の父兄諸氏の御臨席をいただき、ここに本科第13期学生及び研究科第4期学生の入校式を挙行いたしますことは、われわれの誠に光栄であり、深く欣びとするところであります。

本科学生諸君は、全国多数の志願者の中からはげしい競争に打ち勝たれ、また研究科学生諸君は多年の念願がかない、本日、入校の榮譽を得られたのであります。まず諸君に対し、入校のお慶びを申し述べたいと思います。自ら幹部自衛官たらんとするの道を選んで、この風光明媚な小原台上に、今後の4年間を送られる本科の諸君は、若き胸に堅い決意と大きな希望をもって、本日、この式場に臨んでおられるものと想像いたします。私は諸君の決意に衷心から賛意と敬意を表するとともに、諸君が初志を貫徹して立派に修学の目的を達成せられることを切望いたしておるものであります。研究科の諸君は、部隊を離れ修学に専念し得る幸福を思い、専門分野の研究に努力せられることを要望いたします。

主として本科の諸君にお話いたします。諸君の進まんとする道は国防の担い手としての道であります。しかしてこの道は、諸君の貴い人生にとってきわめて有意義であり、生涯を捧げるに足るものであります。その理由として、まず国防の人類に対する意義について申し述べます。国防の本義は、平和の実現であります。平和は人類の理想であります。平和なくして、政治も経済も文化も栄え得るものでなく、人類の幸福も求め得ません。平和の理想の追求こそ人類の最大の念願であります。30億の世界の全人類の常に求めてやまざるものであります。近時、科学技術の驚異的な進歩発達によって、戦争に対する考え方が変わってまいりました。原水爆等核戦争時代においては、ひとたび戦争が開始せられれば、勝者も敗者もなく、戦争目的達成さえも不可能であります。全面



第2代学校長 大森 寛

---

注(1) 小泉純也

注(2) 杉江一三海将

核戦争は、人類の絶滅にも通じかねないといわれるようになりました。かかる時代においては、戦争勃発の阻止、抑制が国防の目標でなければなりません。しかし現実、かかる願望とは程遠く、国際紛争はあとを絶ちません。関係者の努力にもかかわらず、軍縮会議は一向に進捗いたしません。この現実を顧みるとき、国防問題には幾多の重大、かつ未解決の問題を包蔵しておることを痛感いたします。新しい時代における国防理念の確立こそ、目下の緊要事であります。それは人類の幸福な生活のみならず、人類の生存そのものの運命をも左右いたすからであります。人類の理想の追求は若人の大きな関心事であり、これらの問題の解決は、次代の国防を担われる諸君の研鑽と努力とにまたねばならぬのであります。

次に眼を現実のわが国の防衛に転ずるならば、われわれが祖先から受けたこのうるわしい国土、数千年来築き上げて来た文化、愛する親子、兄弟、同胞に対し、不法な侵略が加えられるのを無視するに忍びないのは申すまでもありません。今から約1300年前の大宝律令の昔、防人の時代から日本人の手によって文永・弘安の役をはじめ幾多の国難に対し、われわれの祖先はわが国を護ってまいりました。その歴史的使命を受け継ぐのは、現代に生をうけたわれわれの責務であると申さなければなりません。あれを思いこれを考える時、諸君の選ばれた道は困難であるが日本人としての正しい道であり、若き情熱を打ち込む価値のあるものであります。殊に今なお、終戦後の思想的混乱の<sup>ざんし</sup>残滓の存する今日においては、諸君の使命はパイオニア的意義を有するものと言ひ得るでありましょう。

全人類の理想を追求し、日本国民の要請に応えるの道は、しかしながら決して容易なものではありません。諸君の行くべき道は長く険しく、学ぶべき分野は広く大きいのであります。諸君は今日からその第一歩を踏み出すのです。本校4年間の生活を通じ、幹部自衛官として必要な資質の基礎的素養を身につけるのです。諸君はやがて本校における生活に馴れその意義を理解し、防大生としての誇りを感じようになりましょう。真摯にして着実、しかも明朗闊達なる校風は、必ずや本校に学ばれる諸君の共感を得るものと考えます。諸君の生活は若人らしく澆刺としており、節度のある楽しいものと思ひます。諸君は授業や研究の間においても、訓練の際にも、また校友会活動や余暇の利用においても、すなわち小原台上の全生活を通じて学理を探究し、深くかつ自由に物を考えることができ、個性を培い人間性を陶冶する機会をもつてでありましょう。

私は諸君が次第に自らの人生観、世界観を確立されることを希望いたします。偏狭な態度を戒め、視野を広くし正しく物を判断する能力を養うことは、職務のいかに問はず重要なことですが、殊に諸君の将来にとっては、何物にも代え難い意義を持つものです。それは自衛隊は武力組織であり、諸君の行動が国家の運命を左右し、国民生活に重大な影響を及ぼす可能性があるからです。また部隊指揮という面から考えても、困難な状況下や急激なる情勢の変化に即応して、事に処すべき場合が予想せられ、かかる際

においても、常に大局を誤ることなきを期することが大切であります。

本校における教育は、人文・社会学、語学、防衛学等を含むかなり広範囲なものですが、主要部分を占めるものは、理工学の基礎知識及び専門知識の勉学研究であります。科学の進歩、技術の発達なくして、国家の進展は期待し得ません。しかして現在その進歩、発達は真に目まぐるしいばかりであります。その速度が更に早まるであろう情勢下において、理工学的素養を十分身につけることは、将来の科学、技術的伸展性を培うこととあります。柔軟な頭脳と意欲的な態度をもって努力するならば、世界の進運に即応し得て、高度の技術を駆使する将来の国防を担うために、けだし裨益<sup>ひえき</sup>するところ少なからざるを信ずるのであります。

次に諸君入校の本日、特に強調しておきたいことは、諸君の地位、立場についてであります。すなわち諸君がかくの如く新しい制服を着用しているゆえんは、立派な幹部自衛官になるという国家的要請を負っていることとあります。これが本校の他の一般大学と異なる特質でもあり、諸君の忘れてはならぬ事項であります。かかる観点から、諸君は特に武人としての資質を涵養せんとする心構えをもつべきであります。幹部自衛官としてまた部隊指揮官として、必要な徳目の鍛練に意を用いねばなりません。さらに訓練にはげみ、体力、気力の培養に努めるよう心掛けていただきたいと思ひます。

最後に私の体験をお話し、諸君の勉学の資に供したいと思ひます。私は、警察予備隊発足以来十余年間、保安隊、自衛隊とわが国の防衛力再建の第一歩から、ともに歩んでまいりました。税金泥棒と陰口をたたかれた時代から、部隊としての態勢も整い内容も充実して、昨年オリンピック支援で国内外で称賛の声が聞かれるに至るまで、幾多世相の変遷を経てまいりました。それらの体験を通じて、自衛隊は諸君の先輩の努力によって順調に成長しつつあり、次第に国民の信頼を得、社会生活にも貢献しており、将来、立派な国防軍に発展し得るものであると信じております。いささか我田引水のそしりを免れ得ないかも知れませんが、自衛隊は、わが日本の国の健全なる発展の中核的役割の一端を果しつつあるのでないかと考えておるものであります。この趨勢は、今後さらに促進されるでありましょう。諸君の歩まれる道は、わが国の国防任務を通して、将来の国運にきわめて重大なる影響を及ぼし、その進展に寄与しうるものであると考えられるのであります。

諸君の自愛と健闘とを切望し私の式辞といたします。